たぬきは、てをついて こころから あやまりました。
それをみて、おじいさんも おばあさんも、たぬきを ゆるしました。
それから、おばあさんも すっかり げんきになり、おじいさんも おおよろこび。
たぬきが はたけを あらさなく なったので、ふたりは しあわせに くらしました。

ところが、よるになると いたずらたぬきが やってくるように なりました。
まいにちのように、はたけを あらしたり、やさいを ぬすんだり、
ときには いえのなかに はいってきて、だいどころを あらします。

むかし むかし、あるところに、なかのよい おじいさんと おばあさんが すんで おりました。
おじいさんは、まいにち はたけを たがやし、おばあさんは、きびもちを つくって
くらして いました。

幼児教育に役立つ動画を配信中！
YouTube
のびラボチャンネル

のびラボ!
幼児教育・小学校受験対策プリント
ダウンロード販売サイト
https://www.nobilabo.com/
©Nobilabo 2021 無断転載や内容を改ざんしての配布、転売などはご遠慮ください。

たぬきは、ついに ひるまも あらわれるようになり、おじいさんに、どろを なげつけてきます。
おじいさんも、おばあさんも、すっかり てを やいておりました。

すると うさぎが いいました。
「まいったか。おばあさんを ひどいめに あわせた ばつだ！おばあさんの きもちが わかったか。」
「ごめんなさい。もう にどと わるいことは しませんから。」
うさぎは、たぬきを かいに つかまらせ、すくいあげました。

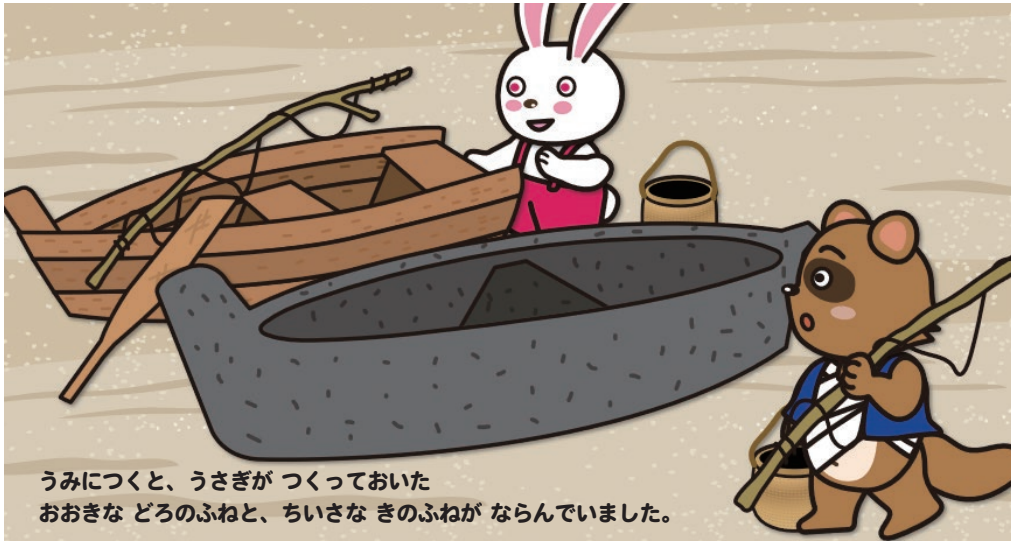
うさぎは きのふねで、たぬきは どろのふねで、おきに むかって こぎだしました。
ところが、しばらくすると、たぬきの どろのふねは、どんどん とけはじめました。
「うわぁ！ふねが とけるよ。しずむよ。たすけてくれぇ！」

そこで、おじいさんは、おべんとうの のこりを きの きりかぶに おいて、わなを しかけました。

さて そのつぎのひ、うさぎは たぬきのいえに いきました。
「きょうは てんきもいいから、うみで さかなを とろうよ。」
「そりゃ いいな。」
おなかが ペコペコだった たぬきは、せなかが いたいのも わすれ、よろこんで でかけて いきました。

おじいさんは たぬきを かついで いえにかえり、いいました。
「ばあさん、わるいたぬきを つかまえたぞ。こんやは たぬきじるだ。」

すると、さっそく たぬきがやってきて、たべものを ぬすもうと しました。
たぬきが てを だしたとたん…。
いたずらたぬきは、おじいさんに つかまって しまいました。



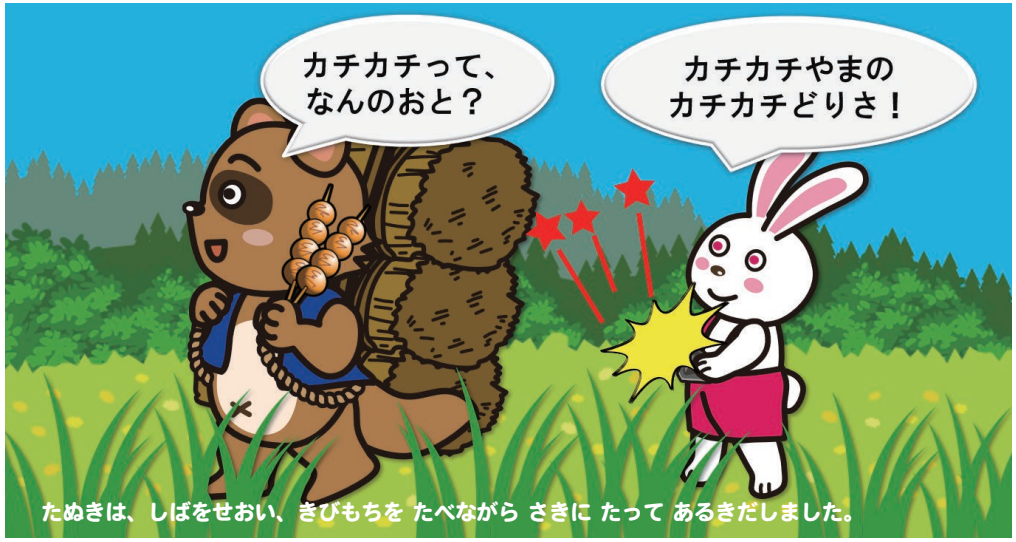
「たぬきさん、ぼくは ちいさいから ちいさい きのふねに のるよ。
　たぬきさんは おおきな どろのふねに のっていいよ。」
うさぎが いうと、たぬきは よろこんで どろのふねに のりこみました。

たぬきは なんとか ここから にげだせないか かんがえました。
そして わんわんと なきながら おばあさんに いいました。
「いたいよう！おばあさん。なわを ほどいてください。なんでもします。なわを ほどいてください。」
おばあさんは、かわいそうになり、なわを ゆるめて あげました。

「たぬきさん、やけどに よくきく くすりを もってきたよ。」
「そりゃ ありがたい。はやく ぬっておくれよ。」
うさぎは、ピリピリする みそを せなかに ぬりました。
「いたい、いたい！ しみるー！」たぬきは とびあがりました。

やがて、たぬきのせなかに ひが もえうつりました。
「あちちちちち！　せなかが かじだぁ！」
たぬきは おおあわてで かけだしました。
たぬきは おおやけどして、すみかに もどって ねこんで しまいました。

おばあさんが、たぬきを つかまえようと すると、
たぬきは おばあさんを おもいきり つきとばしました。
おばあさんは、こしを つよく うって しまいました。
たぬきは いえじゅうの たべものを ぬすみました。



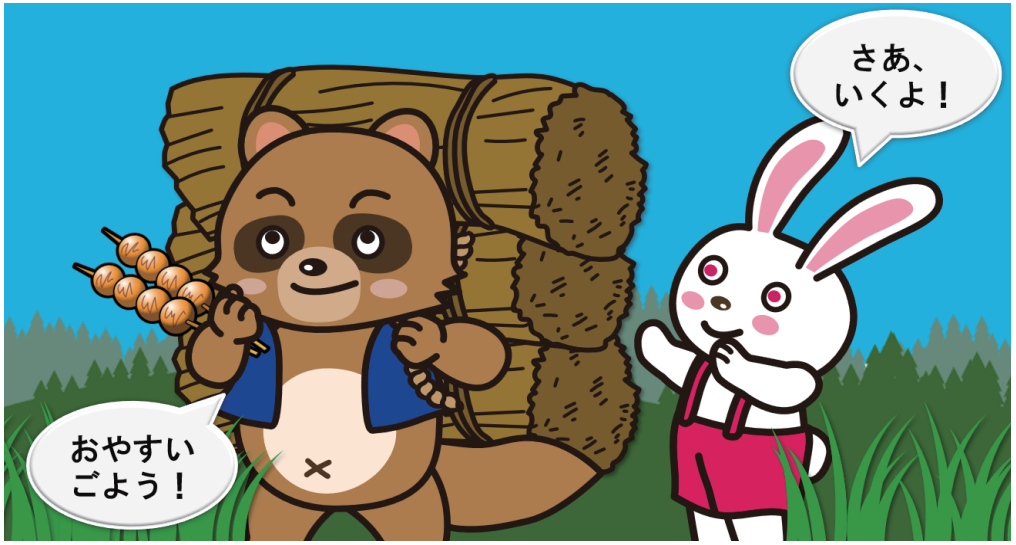
うさぎは、ふところから ひうちいしを とりだすと、カチ！カチ！ とうちました。
「うさぎさん、カチカチいうのは なんのおとだい？」
「カチカチやまの カチカチどりが ないているだけさ。」
「なるほど。」

おじいさんは、いそいで くすりになる くさを さがしに やまに いきました。
そこへ、うさぎが やってきました。
うさぎは おじいさんから はなしを きくと、かんかんに おこりました。
「なんて ひどい たぬきだ！ぼくが こらしめて やる。」

しばらくして、おじいさんが かえって きました。
「ば、ばあさんやっ！」
たおれている おばあさんを みつけて、おじいさんは かけよりました。
「だいじょうぶかい。」おばあさんは、こしをいためて、ねこんで しまいました。

うさぎは かわいた しばに ひを つけました。たぬきが せおったしばが ボウボウと もえはじめました。
「うさぎさん、ボウボウ いうのは なんのおとだい？」
「ボウボウやまの ボウボウどりが ないているだけさ。」
「なるほど。」

きびもちの やけるにおいが ただよっていくと、のこのこと たぬきが やってきました。
「うさぎさん、ぼくにも おもちを わけてよ。」
「しばを はこぶのを てつだうなら、きびもちを わけて あげるよ。」
「おやすい ごようだ。こりゃうまい、うまい！」



たぬきが ぱくぱく たべている あいだに、うさぎは しばのたばを たぬきに せおわせました。
「さあ、たぬきさん、でかけるよ。」